

第2年9組音楽科学習指導案

指導者 加藤 聡子

- 1 題材名 オーケストレーションのおもしろさを味わおう
教材名 「展覧会の絵」(ムソルグスキー 作曲 / ラヴェル 編曲)
「ボレロ」(ラヴェル 作曲)

《学習指導要領との関わり》

- B 鑑賞 (1)ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、
根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
〔共通事項〕 音色 構成 テクスチャ リズム 強弱 旋律

2 題材について

(1) 題材観

本題材では、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって説明することなど音楽のよさや美しさを味わう能力を高めることをねらいとしている。

1年生の鑑賞では「魔王」(シューベルト作曲)や「春」(ビバルディ作曲)を通して、楽曲の表している情景を想像しながら聴き、それとかわらせながら音楽を形づくっている要素や構造をとらえた学習を行った。

そこで本題材では、「管弦楽の魔術師」と呼ばれたラヴェルの楽曲を通して、曲の構成の仕方、楽器の使い方や強弱、テクスチャ等により生み出される様々な効果についての学習を展開することとした。オーケストラの音色、表現力の豊かさに気付かせ、オーケストラ曲をより興味をもって鑑賞することをねらいとしている。

(2) 生徒の実態(男子20名、女子17名、計37名)

1年生の鑑賞学習で、音楽を形づくっている要素を絞って鑑賞を行い、多くの生徒が音楽の特徴をとらえて聴き、自分の言葉で紹介文を書くことができていた。

本題材の学習に向けてたアンケートでは、「リズム」「速度」「強弱」についてはよく理解しているが、その他の要素については充分でないことを示していた。そこで、聴き取らせたい要素、感じ取らせたい要素を焦点化しながら学習をすすめることで、音楽の本質をとらえた鑑賞の仕方を身に付けさせたいと考えている。

(3) 指導観

「オーケストレーション」とは、オーケストラに含まれる弦楽器、管楽器、打楽器などのあらゆる楽器の音色などを効果的に組み合わせることである。「管弦楽の魔術師」や「オーケストレーションの天才」とよばれたラヴェルの楽曲についての学習は、「オーケストレーション」から生み出される楽曲の迫力や面白さを味わわせることができると考える。特に「ボレロ」は、2小節のリズムとスペイン風の二つの旋律の繰り返しという単純な構成でありながら、次々と変わるソロ楽器による音色の変化、リズム

を刻む楽器の変化や同時に3つの調で重なる旋律、全体を通してのクレシェンド、終末に表れる大胆な転調等、ラヴェルの見事なオーケストレーションによってまとめられた曲である。曲の構成がわかりやすく、豊かに音色や色彩が変化する様子を感じ取りやすいため、教材として選択した。

第一次では、音楽が形づくっている要素を中心に、「オーケストレーション」の生み出す音楽の迫力や面白さを感じとらせていきたい。そして、ボレロのリズムと二つの旋律が何度も反復されながら、次々と楽器を変えて進行していく様子や強弱の変化を聴き取らせ、この楽曲のもつ魅力に迫りたい。また、それらを「作曲家が施した秘密」とし、明らかにしていく形で学習を進めるために鑑賞する部分を絞り込み、聴く観点を明確にし、より細部にわたる鑑賞をすすめることとした。楽器の数が増え、旋律やリズムを担当する組み合わせが変わり、強弱も変化していく、そのように刻々と変わる音楽を形づくっている要素によってもたらされる響きの色彩や雰囲気味わわせていきたい。

第二次では「ボレロ」の迫力や面白さを、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら、解説者になったつもりでコンサートのプログラムの楽曲紹介を書かせ学習の深化を図る。これらの活動を通して、今後様々な楽曲を聴いた時に「音楽を形づくっている要素」のかかわり合いを生かしながら鑑賞する力を育てていきたい。

3 題材の目標

- ・ 作曲家の意図した「オーケストレーション」に着目して、楽曲の表現の豊かさを味わって聴く。
- ・ 楽曲の構造や「オーケストレーション」について、そのよさを自分の言葉で説明し、主体的に聴き味わう。

4 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①「ボレロ」の音楽を形づくっている音色、構成、テクスチャ、リズム、強弱や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①楽器やその組み合わせによる音色、構成、テクスチャ、リズム、強弱など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解する。 ②ラヴェルの巧みなオーケストレーションによる効果を感じ取り、その迫力や面白さについて説明したり仲間の話に耳を傾けたりしながら、音楽のよさを深く味わって聴いている。

5 研究の視点について

【視点2】思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや美しさを聴いたりする力の育成

○楽曲全体をとらえた構造図や付箋の活用

音楽の流れ全体を構造図に表し、生徒が聴き取ったこと、気づいたこと、感じ取ったことなどを付箋に記入して貼る。これらを活用して思考の流れを可視化し、楽曲の迫力や面白さが「音楽を形づくっている要素」とそれらのかかわり合いにより生み出されることを理解させていきたい。

6 題材の指導計画（3時間計画）

時	○学習内容 ・学習活動	評価規準
第一次	ねらい オーケストラの響きの豊かさやその響きが生み出す音楽の迫力や面白さを感じとって聴く。	
	<p>第1時（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラの響きの豊かさについて感じ取る。 ・ムソルグスキー作曲『展覧会の絵』から「キエフの大門」の後半部分を、原曲ピアノ演奏版とラヴェルの編曲しオーケストラ演奏版でそれぞれ鑑賞し、響きの違いを聴き取る。 ○「ボレロ」を全曲通して鑑賞し、楽曲の特徴を感じ取る。 ・「ボレロ」のリズム打ちをしたり二つの旋律を歌ったりする。 ・全体の構成やボレロのリズムと二つの旋律の反復、曲の進行とともに、強弱、音色等が変化していくことに感受する。 ・リズムや旋律の変化が生み出す曲の雰囲気を感じ取る。 ・リズムや旋律の変化を聴き、気づいたことを付箋に書く。 ・気づいたことを発表する。 	<p>「ボレロ」の音楽を形づくっている音色、構成、テクスチャ、リズム、強弱や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>（関心・意欲・態度①）</p>
	<p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第3部と第5部の特徴を聴き取る。 ・楽器の種類、楽器の数、強弱、旋律の重なり方、曲の雰囲気の変化に着目して鑑賞する。 ・聴き取ったこと、感じ取ったことを班で整理して特徴をまとめる。 ・聴き取ったこと、感じ取ったことを発表する。 ○第3部以降を鑑賞し、聴き取ったこと、感じ取ったことを伝え合う 	<p>音色、構成、テクスチャ、リズム、強弱など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解する。</p> <p>（鑑賞の能力①）</p>
第三次	ねらい 楽曲の特徴を理解し、紹介文で伝え合い、音楽のよさや面白さを味わう。	
	<p>第3時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ボレロ」の迫力や面白さを紹介文に書く。 ・DVDで全曲を通して鑑賞し、コンサートのプログラムの楽曲紹介を書く。 ・コンサートのプログラムの楽曲紹介文を友達と伝え合う。 	<p>ラヴェルの巧みなオーケストレーションによる効果を感じ取り、その迫力や面白さについて伝え合い音楽のよさを深く味わって聴いている。</p> <p>（鑑賞の能力②）</p>

7 本時の学習（1／3）

（1）目標

オーケストラの響きの豊かさやその響きが生み出す音楽の迫力や面白さを感じとって聴く。

（2）展開

学習内容と学習活動	○教師の働きかけ ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 オーケストレーションによる効果を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「展覧会の絵」から『キエフの大門』の後半部をピアノ原曲とラヴェル編曲のオーケストラ曲を鑑賞する。 <p>2 『ボレロ』と「ラヴェル」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『ボレロ』の冒頭を聴く。 作曲者の特徴について知る。 <p>3 「ボレロ」のスネアのリズムを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> スネアのリズムを叩く。 1分間同じリズムを継続させる。 <p>4 A Bの旋律を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aの旋律とBの旋律を歌う。 <p>5 今日の目標を確認する。</p>	<p>○教師の働きかけ ◆評価規準〈評価方法〉</p> <p>○オーケストラとピアノの音色の違いを感じ取ったことを自由に発言するように促す。</p> <p>○『ボレロ』の冒頭を聴かせ、曲についての興味をもたせるように発問する。</p> <p>○『ボレロ』のリズムを体感させる。</p> <p>○同じリズムを叩き続ける難しさを体感させる。</p> <p>○二つの旋律を覚えられるようにオルガンで引きながら口ずさむように促す。</p> <p>○旋律の高低を手で表現するなどして、特徴を捉えさせる。</p>
<p>「ボレロ」にはラヴェルのどんな工夫が隠されているかその秘密を探ろう。</p>	
<p>6 「ボレロ」の第1部を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aの旋律が聴こえたらピンク、Bの旋律が聴こえたら水色のカードをあげて、構成を確認する。同じリズムと二つの旋律の繰り返しで曲が構成されていることを知る。 <p>7 第2部から第4部を鑑賞し、気が付いたこと、感じ取ったことを付箋に記入しプリントに貼っていく。同じことの繰り返しの中でラヴェルはどんな工夫をしたのかを聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に以下のことを聴き取ることを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>楽器の音色や数、強弱の変化 曲の雰囲気の変化</p> </div> <p>8 班内で印象に残ったところを、お互いに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いに付箋に書き込んだことをもとに班で話し合い、発表する。 <p>9 第5部はどうか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1～4部を聴き取った結果から自由に予想し発表する。 	<p>○旋律の移り変わるタイミングを示すようにする。</p> <p>○聴こえたことや感じたことは積極的に書くように助言する。</p> <p>○強弱の変化だけでも良いことを助言する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆「ボレロ」の音楽を形づくっている音色、構成、テクスチャ、リズム、強弱や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①) (態度観察・ワークシート・発言)</p> </div> <p>○楽器の音色や強弱と曲想の変化を関連させながら発表できるよう助言する。</p> <p>○次時への期待を持たせるようにする。</p>